

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2019年4月1日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 奥 山 英 晃

助成の種類	平成30年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	AAO-HNSF Annual Meeting & Oto Experience		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Tracheal Regeneration by an Artificial Trachea with Human iPS Cell-Derived Multi-Ciliated Airway Cells		
開催場所	アトランタ、USA		
渡航期間	2018年10月6日 ～ 2018年10月11日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	往復航空券	150,000円
		宿泊費	80,000円
		学会参加費	20,000円
当財団の助成について	助成があることで、研究や発表準備に注力することが可能となり非常に有意義なものとなった		

成果の概要 / 奥山 英晃

2018年10月7-10日にAAO-HNSF (American Academy of Otolaryngology- Head and Neck Surgery) に参加した。この学会は米国をはじめ、世界各国から耳鼻咽喉科領域に従事する医療者における世界で最も大きい学会の一つであり、例年およそ5500名を超える参加者がある。今回、”Tracheal Regeneration by an Artificial Trachea with Human iPS Cell-Derived Multi-Ciliated Airway Cells” のタイトルにて現在の研究内容に関する発表を行なった。大学院での研究の国際学会での報告は本学会で初回である。ポスター発表にて演題登録を行なった。本学会では2018年から新たに、抄録によって選出された演題が”Rapid Poster Presentation”として口演を行う場が設けられており、本演題が選出されると学会より連絡を戴いた。ポスター発表に加えて口演も行うこととなり、一演題でポスターと口演を両方発表できる機会に恵まれたことは非常に光栄なことであった。学会会場では、耳科・鼻科・喉頭科・口腔外科・腫瘍学など様々な細分化された専門性の高い教育講演、臨床や研究報告が多数行われており、世界の先進的な医療を肌で感じることができた。また日本国内や台湾や中国などのアジア諸国からの参加も多数あり、情報の共有とともに親交を深めることができた。アジアからの参加者のみでの発表の場 (Asia-Oceania-US Symposium/Initiation Ceremony) もあり、白熱したディスカッションがなされた。またAsia-Oceania Dinner も開かれ、各国の医療の仕組みや研修制度の事情など貴重な話を聞くことができた。本教室からは楯谷講師が”Cutting-Edge Topics in Phonosurgery”のパネリストとして参加し、”Intraoperative Computed Tomography(CT) in Laryngeal Framework Surgery”の演題発表を行なった。”Masters of Surgery Video Presentation”の教育講演では、症例数が少なく国内ではあまりまとまった発表のないような稀な症例に対する診断や治療戦略の発表があり、非常に貴重な知識を得ることができた。”Management of Adult Laryngotracheal Stenosis”、”Laryngomalacia and its Variants”など、臨床においてはなかなか遭遇することの少ない疾患をビデオ演題で供覧しすることができた。”Neck Dissection Thyroid Cancer and the ATA Guidelines”では、甲状腺癌の頸部郭清術術のガイドラインに沿った治療法について米国での基本的な認識を知ることができた。日本と米国での治療戦略に異なる部分がある領域のレクチャーは、改めて国内での治療を鑑みる良い機会であったと考える。”Scientific Posters”の演題は計581演題があった。臨床に関する演題が7割程度を占めていた。本学会にはポスター賞が設定されており、”Best in Show”、”Best in Basic Research”、”Honorable Mention”の3種類の賞があった。本演題”Tracheal Regeneration by an Artificial Trachea with Human iPS Cell-Derived Multi-Ciliated Airway Cells”が”Best in Show”に選出された。当科での研究成果が荣誉ある学会でこのような形で認められたことは、大変光栄であり、また今後の研究活動においてもモチベーションアップにつながるものと考え。学会を通して非常に貴重な経験を得ることができ、助成を受けたことに感謝したい。